

ID	感染症(PT)	出典	概要
1	E型肝炎	Int J Infect Dis. 29(2014)4-6	ルーマニアにおいて、148検体のヒト血清試料で抗HEV IgGについて調査したところ22検体が陽性であった。ルーマニア東部の5ヶ所の農場におけるブタの糞便19検体のうち6検体がHEV RNA陽性であった。ORF2配列のアライメントに基づく系統発生解析によりルーマニアのブタHEV分離株は遺伝子型3に属することが示された。
2	インフルエンザ	PIG PROGRESS 2014.07.28	スコットランドおよび北アイルランドでのブタにおけるインフルエンザの報告。Merial Animal Healthによると、スコットランドと北アイルランドでの調査で、調査を受けた群の3分の1以上のブタが豚インフルエンザ陽性であることがわかった。280以上の農場が調査され、その結果、血清学的に34%が陽性であることが示された。
3	インフルエンザ	THE PIG SITE 2014.07.28	スコットランドおよび北アイルランドでのブタにおけるインフルエンザの報告。Merial Animal Healthによれば、スコットランドと北アイルランドでの調査で、調査を受けた群の3分の1以上のブタが豚インフルエンザ陽性であることがわかった。280以上の農場が調査され、その結果、血清学的に34%が陽性であることが示された。
4	インフルエンザ	ProMED-mail 20140803.2655122	米国におけるインフルエンザA(H3N2)の報告。ノースダコタ州の農産物品評会で展示中のブタ3匹における初めてのH3N2陽性反応例が報告された。
5	インフルエンザ	THE PIG SITE 2014.08.05	米国におけるインフルエンザA(H3N2)の報告。ノースダコタ州の農産物品評会で展示中のブタ3匹における初めてのH3N2陽性反応例が報告された。
6	インフルエンザ	AASV 2014.08.06	米国におけるインフルエンザA(H3N2)の報告。ノースダコタ州の農産物品評会で展示中のブタ3匹における初めてのH3N2陽性反応例が報告された。
7	インフルエンザ	ProMED-mail 20140807.2668591	米国におけるインフルエンザA(H3N2)の報告。ノースダコタ州の農産物品評会における展示中のブタでのH3N2感染例では、2014年8月6日時点で変異型感染は確認されていない。
8	インフルエンザ	ProMED-mail 20140828.2728617	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(H3N2v)の報告。2014年8月18日の週に米CDCはオハイオ州におけるH3N2vの初めてのヒト発症例を報告した。ヒト-ヒト感染は確認されていない。本症例は発症の前週にブタとの濃厚接触があったことが報告されている。
9	インフルエンザ	Emerg Infect Dis. 20(2014)843-846	米国における野生ブタに発生したインフルエンザA(H3N2)の報告。2011年7~8月、2例の児童が再集合体異型H3N2に感染した。このウイルスは、抗原的にサブクラスターH3N2-βのウイルスに類似しており、インフルエンザA(H1N1)pdm09ウイルスの基質遺伝子を持ち、2011年8月~2014年4月に2,055例が発症した。野生ブタは新型インフルエンザの保菌動物となり得、3年ほど生存するため、抗原的に異なった血球凝集素を持つ同じ亜類型の新型インフルエンザに再感染する可能性がある。野生ブタと家畜ブタの接触は珍しいことではないため、インフルエンザは双方向的に伝播する可能性がある。野生ブタに感染した新型インフルエンザはヒトへ感染する可能性がある。

ID	感染症(PT)	出典	概要
10	インフルエンザ	CDC Update Influenza Activity 2014/12/19	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)の報告。2014年第42週にH3N2vのヒト感染症例1例がウイスコンシン州からCDCに報告された。前週にブタとの濃厚接触があったことが報告されている。
11	A型インフルエンザウイルス検査陽性	ProMED-mail 20140916.2776180	米国におけるインフルエンザA(H3N1)の報告。USDA IAV-S サーベイランスプログラムは、2013年12月以降、米国のブタにおいて、少なくとも2州における複数のH3N1を確認した。米国のブタにおいてH3N1が検出されたのは、初めてではないが、H3N1のうち2件がヒトウイルス由来の新型のヒト季節性HA遺伝子を保有しており、現在のブタH3ウイルスとは異なっていた。
12	A型インフルエンザウイルス検査陽性	Emerg Infect Dis. 19(2013)1972-1974	2012年1月13日、群馬県において1匹のブタから新型インフルエンザウイルスA(H1N2)の分離株が検出された。系統発生解析の結果、分離株は同時群馬県内で蔓延していたブタインフルエンザウイルスH1N1pdm09およびH1N2から派生した新型の二重再集合ウイルスであることが判明した。
13	インフルエンザ	WHO 2014/12/4	スウェーデンおよび米国におけるインフルエンザA型の報告。2013年以降、スウェーデンの養豚場ではインフルエンザA(H1N2)型再集合ウイルスが検出されており、2014年には2例の養豚家から検出された。ウイルスの遺伝子分析により、H1N2pdm09ウイルスとの近縁関係であることが示された。ヒト-ヒト感染の発生を伴わない、ブタ-ヒト感染によるものと考えられた。米国においてインフルエンザA(H3N2)変異型(H3N2v)ウイルスによるヒト感染が確認された。いずれの症例も前週にブタとの濃厚接触があったことが報告されている。
14	インフルエンザ	Arch Virol.2014 Sep 11. [Epub ahead of print]	ブラジルにおけるH1N1パンデミックウイルスに由来し、ヒトウイルスに類似する、再集合体H1N2インフルエンザAウイルス(IAV)の最初の報告。著者らは、これらのウイルス由来遺伝子が混合したこと(遺伝子再集合現象)はブタ集団とさらにヒト集団でのIAV感染管理の重要性を示すと結論付けており、ヒト集団への感染防止のために、ブタIAVの蔓延時にはヒトへのワクチン接種は重要であると述べている。
15	日本脳炎B型	ProMED-mail 20140828.2731739	ネパールにおける日本脳炎の報告。2014年7月中旬以降、Morang Distinctの3ヶ所のvillage development commiteesにおいて、少なくとも6例が日本脳炎により死亡した。他7例が危篤状態である。Morang Distinctのほか、Jhapa, Siraha, Saptari distinctsにおいて患者が増加している。
16	口内炎	OIE 5 August 2014	米国における水疱性口炎の報告。米国テキサス州のVal Verde, Val Verde Countyの農場などにおける35件の水疱性口炎が報告された。感染の内訳はウマにおいて疑い例358例、症例44例、ウシにおいて疑い例1,782例、症例2例、ヤギにおいて疑い例11例、ブタにおいて疑い例3例であった。感染源は不明、もしくは結論に到達していない。
17	ハンタウイルス	PLoS Negl Trop Dis. 7(2013)e2484	中国の雲南省Longquan市におけるハンタウイルスの分子疫学調査の報告。ハンタウイルスの宿主の遺伝的多様性およびヒト由来ハンタウイルスとの関連を解析するため、2008-2011年に齧歯類を含む小型哺乳類10種の肺および腎臓を採取した。間接免疫蛍光アッセイ(IFA)により、ラットの検体からGou virus、セズジネズミの検体からHantaan virusが検出され、両ウイルスが新規遺伝子型であることが示された。また、2009-2011年に3例の急性腎症候性出血熱患者の血清からHantaan virus特異的抗体、1例の血清から、Gou virus特異的抗体が検出され、齧歯類から検出された新規遺伝子型と非常に密接な関連性を示した。

ID	感染症(PT)	出典	概要
18	デング熱	Int J Infect Dis. 27(2014)4-6	中国におけるデング熱の報告。2013年に中国雲南省のシーサンパンナ・タイ族自治州において、デング熱の予想外のアウトブレイクが報告された。核酸検出およびウイルス単離により、デングウイルス血清型3(DENV-3)であることが確認された。エンベロープ遺伝子配列の系統発生解析により、これらのDENV-3分離株は遺伝子型IIIに属することが明らかにされた。
19	口蹄疫	ProMED-mail 20140505.2450260	北朝鮮における口蹄疫の報告。2014年2月18日、北朝鮮は、平壤の17ヶ所の豚農場における深刻な口蹄疫のアウトブレイク4件を報告した。ブタ数百匹が死亡し、数千例が感染した。
20	口蹄疫	OIE 21 May 2014	ロシアにおける口蹄疫の報告。2014年5月17日、ロシアのPrimorskyにおいてブタの口蹄疫(血清型O)のアウトブレイクが発生した。ブタにおいて疑い例13,695匹、症例11,518匹、死亡例4,196匹で、感染源は不明もしくは結論に到達していない。
21	口蹄疫	OIE 28 May 2014	ロシアにおける口蹄疫の報告。2014年5月25日、ロシアのPrimorskyにおいてブタの口蹄疫(血清型O)のアウトブレイクが発生した。ブタにおいて疑い例169匹、症例169匹、死亡例8匹で、感染源は不明もしくは結論に到達していない。
22	口蹄疫	OIE 30 May 2014	ロシアにおける口蹄疫の報告。2014年5月28日、ロシアのPrimorskyにおいて3件のブタの口蹄疫(血清型O)のアウトブレイクが発生した。ブタにおいて疑い例6,120匹、症例3,153匹、死亡例7匹で、感染源は不明もしくは結論に到達していない。
23	口蹄疫	OIE 9 Jun 2014	ロシアにおける口蹄疫の報告。2014年5月28日、ロシアのPrimorskyにおいて2件のブタの口蹄疫(血清型O)のアウトブレイクが発生した。ブタにおいて疑い例61匹、症例34匹で、感染源は不明もしくは結論に到達していない。
24	口蹄疫	OIE 4 Jul 2014	中国における口蹄疫の報告。2014年6月23日、中国においてブタの口蹄疫(血清型A)のアウトブレイクが発生した。ブタにおいて疑い例9匹、症例3匹で、感染源は不明もしくは結論に到達していない。
25	口蹄疫	OIE 24 Jul 2014	韓国における口蹄疫の報告。2014年7月23日、韓国においてブタの口蹄疫(血清型O)のアウトブレイクが発生した。ブタにおいて疑い例1,500匹、症例3匹で、感染源は不明もしくは結論に到達していない。
26	口蹄疫	ProMED-mail 20140728.2641218	韓国における口蹄疫の報告。2014年7月28日、韓国において2件目のブタの口蹄疫(血清型O)のアウトブレイクが確認された。3年間ではじめての口蹄疫のアウトブレイクがUiseong付近の1ヶ所のブタ農場において確認された4日後に、新たなアウトブレイクがGoryeongの1ヶ所のブタ農場において確認された。
27	口蹄疫	ProMED-mail 20140809.2675093	韓国における口蹄疫の報告。2014年8月7日、韓国のSouth Gyeongsang, Hapcheon Countryのブタ農場において口蹄疫が確認された。ブタ121匹が処分され、当局は感染した本農場が217以上の農場と直接的または間接的に接触していることから、感染拡大を懸念している。
28	口蹄疫	OIE 26 Nov 2014	中国における口蹄疫の報告。2014年11月18日、中国においてブタの口蹄疫(血清型O)のアウトブレイクが発生した。ブタにおいて疑い例35匹、症例4匹で、感染源は不明もしくは結論に到達していない。
29	口蹄疫	OIE 6 Jan 2015	中国における口蹄疫の報告。2015年1月2日、中国においてブタの口蹄疫(血清型A)のアウトブレイクが発生した。ブタにおいて疑い例926匹、症例556匹、死亡314匹、処分612匹で、感染源は不明もしくは結論に到達していない。

ID	感染症(PT)	出典	概要
30	パルボウイルス感染	J Gen Virol. 95(2014)453-465	米国におけるブタポカウイルス(PBoVs)報告。米国において、様々な病態を有するブタより肺、リンパ節、血清、糞の385サンプルをランダムに採取し調査したところ、50.8%のサンプルからPBoVsが検出され、1サンプルにおいて2種以上のPBoVsに感染している例が多く見られた。
31	ウイルス感染	J Virol. 88(2014)3170-3181	遺伝子1型および2型のブタ生殖器呼吸器症候群ウイルス(PRRSV)株のORF5および全ゲノム配列の解析に関する報告。PRRSVのORF5配列のデータセットおよび全ゲノム配列を解析した結果、ほとんどのORF5データセットが少なくとも1つの組換え型配列を有していた。全ゲノム配列の解析では遺伝子1型セット、2型セットともに切断点を示し、切断点の前後で異なるトポロジーという結果をもたらした。著者らは、これらの結果はPRRSVの分子疫学の理解について重要な意義を持つ可能性があるとしている。
32	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 2014026.2430819	2014年4月24日、ブラジルにおいてウシ1頭の非定型BSEの疑い例が確認された。マツ・グロソ州にある食肉処理場での獣医師による定期検査にて、神経障害があると疑われるウシが見つかったとの報告である。
33	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	OIE 2 May 2014	2014年4月14日ブラジルのBSEサーベイランスシステムで12歳の雄ウシからプリオンマーカが検出され、殺処分された。疫学的調査で、当該個体と同じ出生コホートの49頭のウシが見つかり、これらも殺処分された。これらのウシから神経組織サンプルが採取され、国立研究所でBSEに関して検査した結果、全て陰性であることが判明した。
34	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	OIE 20 June 2014	ルーマニアにおける異型クロイツフェルト・ヤコブ病に関する報告。2014年5月6日、ルーマニア・キンテニの村(Deusu)の屠殺場において非定型BSE(L-BSE)の牛1頭が確認され、検査が行われた。6月9日ルーマニア国立研究所(institute for diagnosis and animal health)でのウエスタンブロット法にて、L-BSE陽性が確認され、6月12日英国動物衛生獣医学研究所での免疫組織化学的検査およびウエスタンブロット法によりL-BSE陽性が確定した。本疾患の発生源は未確定であり、疫学調査が継続中である。
35	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20140703.2585872	ルーマニアにおける異型クロイツフェルト・ヤコブ病に関する報告。2014年5月10日、食肉処理場にて屠殺されたウシ1頭でBSEの感染が認められた。検査の結果自然発生型の非定型BSEの可能性があるとされた。
36	ブドウ球菌感染	Prev Vet Med. 2014 Sep 2. pii:S0167-5877(14)00266-9.[Epub ahead of print]	ドイツおよび周辺国の家畜ブタ集団におけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)感染の危険因子を評価した。肥育期間中の抗菌薬(菌増殖の好条件になり得る)およびスラット式の床の使用(溝が菌存続の温床となる)が危険因子となるとの報告である。
37	ブドウ球菌感染	ProMED-mail 20140715.2612645	オーストラリアにおける初のブタにおけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)感染の報告。調査によると、このMRSAの検出株がヨーロッパの検出株と同一起源であることが示唆され、その株がオーストラリアで独自に進化したのではなく、外来種の侵入であるとの報告がなされた。
38	ブドウ球菌感染	PIG PROGRESS 2014.07.29	英国における初のブタにおけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)感染の報告。2014年5月に英国農業食糧生物科学研究所(AFBI)のOmagh疾病監視研究所に提出された5つのうちの1つのグループの1匹の子豚から検出された。

ID	感染症(PT)	出典	概要
39	ブドウ球菌感染	THE PIG SITE 2014.12.24	デンマークにおけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)感染の報告。MRSAがデンマークの養豚場のうち3分の2に存在し、デンマークの12,000人の人々が知らない間にMRSAに感染している可能性があるとの報告。デンマークのスーパーマーケットのブタ肉製品の抜き取り検査では、全てのブタ肉の5分の1のパックでMRSAが見つかった。
40	レンサ球菌感染	Centers for Disease Control and Prevention	Streptococcus suisは、ヒトとブタとの間で感染が拡大する新興人獣共通感染症である。ブタからヒトへの感染は、ブタの屠殺時や加熱が不十分な豚肉製品を食べることによって起こる。ヒトに主な臨床症状は、敗血症、関節炎、心内膜炎、眼内炎、髄膜炎である。
41	レンサ球菌感染	ProMED-mail 20140826.2725059	香港におけるブタレンサ球菌感染の報告。2014年8月、57歳男性が寒気、下痢、全身虚弱となり、集中治療室に入院するも同日中に死亡したもの。多臓器不全を伴う感染性ショックと診断されており、血液培養にてブタレンサ球菌が検出された。
42	ウシ型結核菌	J Clin Microbiol. 52(2014)536-543	ウシ型結核菌、カンサシ型結核菌、ヨーネ菌を含む、ウシ型結核にさらされた事例、及び陰性の対照群について、バリデーション解析が実施された。ホストバイオマーカーの内、ビタミンD結合タンパクにウシ型結核菌に対する感受性と特異性が認められた。
43	サルモネラ症	Int J Food Microbiol. 189(2014)11-17	イタリアにおけるサルモネラ症の報告。2011年6月にイタリア北東部での結婚披露宴出席者の間でサルモネラ症のアウトブレイクが報告された。このアウトブレイクの原因は披露宴で出された調理済みの豚肉料理と特定された。ヒト及び料理から単離された菌はサルモネラ(ファージ型DT7a)と同定された。
44	ブルセラ症	ProMED-mail 20141009.2846346	オーストラリアでの猟犬におけるブルセラ症の報告。オーストラリア北西部において地方陸軍は、3頭のブタ猟犬がブタ起源のBrucella suisの陽性反応を示したと報告した。猟犬は感染が疑われる野生のブタとの接触後、陽性反応を示したとの報告である。
45	ノカルジア症	Vet Microbiol. 167(2013)708-712	ブラジルにおけるウシのノカルジア真菌感染に関する報告。ウシ乳房炎に關与する80種のノカルジア分離株の菌種の分布およびブラジルの3地域からの全分離菌の抗菌薬感受性パターンを明らかにした。最も多くみられた分離株はNocardia nova(80%)、次にNocardia farsinica(9%)であった。その他に、Nocardia puris、Nocardia cyriacigeorgica、Nocardia veterana、Nocardia africana、Nocardia arthritisが検出された。分離菌が耐性を最もよく示したのは、クロキサシリン(75%)、次にアンピシリン(55%)、セフォペラゾン(47%)であった。アミカシン、セフロキシム、ゲンタマイシンに対して耐性を示したノカルジア菌種はほとんどなかった。
46	細菌感染	BioMed Central 28 Apr 2014	中国におけるローソニア・イントラセルラリス感染の報告。ローソニア・イントラセルラリスは主に、ブタ小腸および大腸で増殖し、離乳後のブタ増殖性腸疾患の原因となる。中国において、ブタのローソニア・イントラセルラリスの保有率を調査したところ、1,060血清サンプル中77%であった。
47	旋毛虫	ProMED-mail 20140801.2651918	アルゼンチンにおける旋毛虫症の報告。コルドバの保健省によると現在までに13例が市内の旋毛虫症の治療を受けた。全ての患者は、同じ店で購入したブタ肉で作られた製品を食べていた。